

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

「科学する心」について考えよう／福岡市立和白幼稚園（福岡県）

「科学する心」について、具体的にはどのような姿なのかを、園の中で話題にすることはありますか？ また、「科学する心」が育まれている具体的な場面を基に、子どもの姿を共有することはありますか？

今回は、子どもたちの遊びの姿から「科学する心」に繋がる場面を捉え、園が考える6つの視点からまとめている事例をお伝えいたします。具体的な場面を通して、園内で話し合うことは「自分たちが考える科学する心」の共有に繋がります。



● 子どもの姿から「科学する心」を捉える／4～5歳児

✦ 本園が考える「科学する心」

本園では、遊びを通して生じる様々な姿から読み取れる「出会い感動する」「五感で感じる」「やってみる」「繰り返し関わる」「新たな発見をする」「ますます関わりたくなる」の6つの心を「科学する心」と捉えている。幼児の遊びは、自然やもの、事象との出会い、「わあすごい」「きれい」などと感動することで始まる「①出会い感動する」。気付いたことに興味をもつことを見る、触るなど五感で感じながら関わるようになる「②五感で感じる」。そこで次第に、自分で作ったり、調べたりするなどの「③やってみる」行動が見られるようになる。そして、そのことに喜びや楽しさを見出すと、「もっとやってみよう」「もっと知りたい」と興味や関心をもって繰り返し関わるようになり、遊びを継続させていく「④繰り返し関わる」。さらに、その遊びに興味をもった友達や似ているが少し異なる遊びをしている友達と関わることにより、新しいアイデアが付加され、そのものや事象について「⑤新たな発見をする」。その発見をもとに、「⑥ ますます関わりたくなる」。この深まった姿が、生きる喜びを味わった姿であり、生きる力を育むことに繋がると考える。（図1）



図1：「科学する心」の捉え（図をクリックで拡大）

✦ 本園で捉えた「科学する心」

園が考える「科学する心」の6つの視点を基に、遊びの中で見られる「科学する心」の姿を、園内で共有した。

① 出会い感動する



② 五感で感じる



③ やってみる



雲の様子に目が留まり、いつもの雲と違う様子を気付く



凧みたい。おもしろいよ。

偶然見つけたプレートが凧のように風に舞う様子を見て喜ぶ幼児

カタツムリの様子を興味深く見る幼児



気持ちがいいね。

柔らかいね。

水溜りの感触を楽しむ幼児

柔らかい土の感触に感動した幼児が水と土で柔らかい土を作る様子



お化粧みたいになるかな。

泥が乾くと白くなることに気づいた幼児が、腕に泥を塗って白くなるか試している様子

④繰り返し関わる



丸く作ることができるようになってきた。

何度も泥団子を作る幼児

⑤新たな発見をする



いないかな。

見付けた。

蝶の幼虫がキャベツを好きなことを発見し、キャベツの近くを探す幼児

⑥ますます関わりたくなる



サクランボの種だよ。

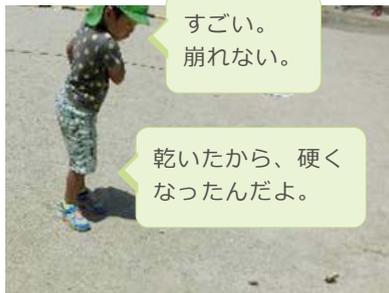
穴を空けて、その中に種を入れよう。

ヒマワリの種を植えたことを思い出しながら、サクランボの種を植えようとする幼児



ここをもっと掘ろう。

何度も川作りをしているうちに、深い川を掘ることを楽しみ始めた幼児



すごい。崩れない。

乾いたから、硬くなったんだよ。

前日に作った泥団子が、投げても崩れない程硬くなっていることを発見する幼児



さらさらだ。

この砂がいいんだよ。

ピカピカの団子を作るために、よい砂を探してかける幼児

✿ 本園が考える「科学する心」を育てる過程

以上のような6つの心を育てるためには、子どもたちの「科学する心」を見取る保育者の目を養い、「科学する心」を見取った上での「環境の構成と援助の工夫」を明らかにすることが大切と考える。(図2)



図2：本園が考える「科学する心」を育てる過程
(図をクリックで拡大)

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム
幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」